

「継続的な学び」と「仕事に活用できるネットワーキング」を実践する舞台づくり ～全国に広がる卒塾生約530名軸に観光業界の 人材育成と交流のための情報収集に着手～

ホスピタリティ教育研究会は、「ホテル産業経営塾」および「MICE（マイルス）塾」の卒塾生が中心となって活動している団体、会員数は約530名におよぶ。会長は（株）ホスピタリティ デザイン 横浜 代表取締役 石原健氏（ホテル産業経営塾 1期生）、副会長は（株）ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ 取締役 常務執行役員 並びに 横浜ロイヤルパークホテル 総支配人 雄城隆史（ホテル産業経営塾 6期生）、富士屋ホテル（株）箱根ホテル 支配人 久保田紀和（ホテル産業経営塾 8期生）、野村不動産ホテルズ（株）庭のホテル東京 総支配人 海老沼悟（ホテル産業経営塾 12期生）の3名。石原健会長に経緯と取り組みについてお話をいただいた。



ホスピタリティ教育
研究会 会長
石原 健氏

日本政府観光局（JNTO）、（一社）日本ホテル協会、（一社）全日本ホテル連盟、（一社）日本旅館協会、（一社）日本旅行業協会などの後援を受けて発足したものです。毎年最大30名の塾生が1年間参加型の授業を一流の講師陣から学ぶことができます。（現在はコロナ禍などの影響もあり、両塾はともに休眠中です）。

年1度開催する大会では講演会やシンポジウムでの学びと懇親会、展示も加えて、会の目的である「継続的な学び」と「仕事に活用できるネットワーキング」を実践する舞台としています。ホテル経営や運営に関わる話をはじめ、年ごとに宿泊、料飲、宴会、婚礼に特化した内容で、現職の総支配人や業界関係者を招いています。

毎年最大30名の塾生が 1年間参加型の授業を 一流の講師陣から学べる

2022年11月17日、横浜ロイヤルパークホテルにて「ホスピタリティ教育研究会」のセミナー・展示会・懇親会が約3年振りに開催されました。参加者は約80名、「コロナ後の観光産業について」をテーマで、私がファシリテーターとなり、北村剛史氏、高橋敏也氏、村山慶輔氏（敬称略）の3名をパネリストを迎え、日ごろから交流もあることから活発なセミナーとなりました。

2001年4月に（一財）日本ホテル教育センターにより、新しいマネジメント手法を実践的に活用できる計数感覚に優れたホテルマネジメントの育成を目指した「ホテル産業経営塾」（故・春口和彦 塾長）、2011年4月には ホテル・旅館に経済効果をもたらす業界の未来を担保する“MICEリーダー”を育成する「マイルス塾」（故・浅井新介 塾長）が、国土交通省 観光庁、

現職の総支配人招き各部門別に 特化したシンポジウム開催

卒塾した塾生はそれぞれの施設でホテルマネジメントとして活動しながら、年に一度の同窓会での記念講演やセミナーで情報交換や懇親を深めていたが、懇親を主体とした活動には参加しづらいとの声が多届けいたため、これまでの「ホテル産業経営塾 同窓会」を解消し、新たに「継続的な学び」や「仕事に活用できるネットワーキング」を主な目的とした「ホスピタリティ教育研究会」を2011年4月5日に発足し、その後の「ホテル産業経営塾」と「MICE（マイルス）塾」の卒業生も迎えての活動を行なってきました。

発足時に顧問として就任していただいたのは藤原邦彦氏、田中勝氏、川島久男氏のお三方で、現在は前会長の南安氏（敬称略）を加えた4名で助言ならびに提言をいただいております。

転職や退職で連絡の 取れなくなった塾生への 再度のコンタクト

もう一つの大事な柱として考えているのは、観光業界の人材育成と交流のための発信です。全国に広がる卒塾生約530名の中にはホテル・旅館の中堅や総支配人、社長を務めている者も多くいます。ネットワークを活用した業界の活性化に向けた最新情報の共有や人手不足の中で人材紹介にもつなげるとともに、転職や退職で連絡の取れなくなった塾生への再度のコンタクトなど、連絡網の整備と現状の確認にも力を注いでいます。

今後もこのネットワークを財産として共有ができるかが会の存在意義にも関わってくると考えております。

ホスピタリティ教育研究会
〒231-0004 横浜市中区元浜町 2-13-1-705
（株）ホスピタリティ デザイン 横浜 内
E-mail:ishihara@hospy.com
URL:http://www.hospitality-hotelmice.jp/